

## 安全データシート

### 1. 製品及び会社情報

製品名	ピーコン忌避剤（スプレー）
会社名	京都リフレ新薬株式会社
住所	京都府城陽市平川山道 33-1
電話番号	0774-55-2283
Fax 番号	0774-55-2285

### 2. 危険有害性の要約

#### 【GHS 分類】

#### 物理化学的危険性

可燃性／引火性エアゾール : 区分1

#### 健康に対する有害性（原液として）

急性毒性（経口） : 区分外

急性毒性（経皮） : 区分外

皮膚腐食性・刺激性 : 分類できない

眼に対する重篤な損傷・眼刺激性 : 区分2

呼吸器感受性 : 分類できない

皮膚感受性 : 分類できない

生殖細胞変異原性 : 分類できない

発がん性 : 分類できない

生殖毒性 : 区分1

特定標的臓器・全身毒性（単回暴露） : 区分1、区分3（気道刺激性）

特定標的臓器・全身毒性（反復暴露） : 区分2

吸引性呼吸器有害性 : 分類できない

#### 環境に対する有害性（原液として）

水生環境急性有害性 : 分類できない

水生環境慢性有害性 : 分類できない

（これらは原液としての評価です）

#### 【GHS ラベル要素】

#### 絵表示又はシンボル



注意喚起語：危険

危険有害性情報 : 極めて可燃性／引火性の高いエアゾール  
 強い眼刺激  
 生殖能または胎児への悪影響のおそれ  
 臓器の障害  
 呼吸器への刺激のおそれ  
 長期にわたる、または反復暴露による臓器の障害のおそれ

注意書き

- ・ ご使用前に SDS をお読み下さい。
- ・ 取扱い後は十分に手洗いすること。
- ・ 火気厳禁。電気機器類、静電気、スパークなどによる着火源を生じないようにする。
- ・ 吸入飲用不可。
- ・ 保護手袋、保護眼鏡等を着用すること。
- ・ 皮膚や衣類についた場合、大量の水と石鹼で洗うこと。
- ・ 眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。  
 眼の刺激が続く場合は、医師の診断／手当てをうけること。
- ・ 換気のある冷暗所（又は指定の場所）に密閉して保管すること。

3. 組成成分情報

単一製品・混合物の区別	: 混合物						
一般名	: ハト用忌避剤						
成分	: 香料、グリコール系溶剤、イソプロピルアルコール、液化石油ガス						
SDS 通知対象物質	: <table border="1" style="display: inline-table; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">成分名</th> <th style="text-align: center;">CAS No.</th> <th style="text-align: center;">含有量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">イソプロピルアルコール</td> <td style="text-align: center;">67-63-0</td> <td style="text-align: center;">28.2%</td> </tr> </tbody> </table> (原液として)	成分名	CAS No.	含有量	イソプロピルアルコール	67-63-0	28.2%
成分名	CAS No.	含有量					
イソプロピルアルコール	67-63-0	28.2%					

4. 応急措置

吸入した場合 : 蒸気、ガス等を大量に吸い込んだ場合には、被災者を直ちに空気の新鮮な場所に移し、頭を低くして横向きに寝かせ、身体の保温に努める。速やかに医師の診断を受ける。  
 蒸気、ガス等を吸い込んで気分が悪くなった場合には、空気の清浄な場所で安静にし、医師の診断を受ける。

皮膚に付着した場合 : 付着物を布にて素早く拭き取る。  
 大量の水及び石鹼又は皮膚用の洗剤を使用して十分に洗い落とす。  
 外観に変化が見られたり、痛みがある場合には医師の診断を受ける。

目に入った場合 : 直ちに清浄な水で 15 分以上洗眼する。まぶたの裏まで完全に洗うこと。速やかに眼科医の診断を受ける。  
 コンタクトレンズを使用している場合は、固着していない限り取り除いて洗浄する。

飲み込んだ場合 : 誤って飲み込んだ場合には、安静にし速やかに医師の診断を受ける。医師の指示による以外は無理に吐かせないこと。

## 5. 火災時の措置

- 消火剤 : ABC または BC 型粉末消火器、二酸化炭素、ドライケミカル。  
初期火災の場合、粉末、炭酸ガス、アルコールなどを用いる。
- 特有の消火方法 : 可燃性のものを周囲から速やかに取り除く。  
指定の消火剤を使用する。  
高温にさらされる製品容器に水をかけて冷却する。  
消火活動は風上から行うこと。  
エアゾール製品の場合、高温で破裂する恐れがあるため、消火活動は距離を十分に取る。  
約 50℃以上に加熱されれば破裂や爆発の危険が生じるので速やかに避難する。特に大量の場合は、後の消火作業は消防要員に任せたいほうが無難である。
- 消火を行う者の保護 : 消火作業では、状況に応じて適切な保護具（耐熱着衣など）を着用する。

## 6. 漏出時の措置

- 人体に対する注意事項、  
保護具及び緊急時措置 : 作業の際、吸入や皮膚に触れない様、適切な保護具（手袋、保護マスク、エプロン、ゴーグル等）を着用し、換気を良くして処理する。
- 環境に対する注意事項 : 流出した製品が河川等に排出され、環境に影響を起ささないように留意する。
- 回収、中和、封じ込め  
及び浄化方法・機材 : 漏出物は密閉できる容器に回収し、安全な場所に移す。  
付着物、廃棄物などは関係法規に基づいて処置をする。  
衝撃、静電気にて火花が発生しないような材質の用具を用いて回収する。  
乾燥砂、土、その他不燃性のものに吸着させて回収する。大量の流出には盛り土などで囲って流出を防止する。  
河川、排水溝、下水道に排出されないように注意する。
- 二次災害の防止策 : 付近にある着火源となるものを速やかに取り除くと共に消火剤を準備する。  
振とうすると内容物が噴出する恐れがあるので注意して取り扱う。

## 7. 取扱い及び保管上の注意

- 取扱い  
技術的対策 : 周辺で火気、スパーク等の発火源となるものや高温物の使用を禁止する。  
容器はその都度キャップ（ストッパー）または密栓する。  
工業用品は静電気対策のため、装置等は接地し、電気機器類は防爆型（安全増型）を使用する。  
工具は火花防止型のものを使用する。  
作業中は帯電防止型の作業服、靴を使用する。  
使用済みウエスは、廃棄するまで水に漬けておく。  
40℃以上の所では取り扱わないこと。40℃以上に暖めないこと。  
30 秒以上の連続使用をしないこと。（ただし、連続噴射式製品を除く）
- 局所排気・全体換気 : 換気の良い場所で取り扱う。  
密閉された場所での作業の場合、十分な局所排気装置を設ける。

注意事項 : 人体に向けて使用しないこと。  
 炎に向けて使用しないこと。  
 暴露防止の為、適切な保護具を着用して作業を行い、皮膚への接触を避ける。取扱い後は十分に手洗いをする。

保管

保管条件 : 直射日光を避け、温度が 40 度以上になる所に置かないこと。換気の良い冷暗所に保管する。  
 火気、熱源から遠ざけて保管し、温度が 40℃以上の所で保管しない。  
 水回りや高湿度の場所での保管は避ける。  
 子供の手の届かない所に保管する。

8. 暴露防止及び保護措置

管理濃度・許容濃度：

成分名	管理濃度	許容濃度		
		日本産業衛生学会	ACGIH-TWA	ACGIH-STEL
	(製品として)			
	400 ppm 以下が望ましい			
イソプロピル アルコール	200 ppm	400 ppm	200 ppm	400 ppm

設備対策

(共通)

局所排気装置を設置し、蒸気が滞留しないようにする。  
 取り扱い場所の近くには、高温、発火源となるものが置かれない設備とすること。

(工業用品)

取り扱い設備は防爆型を使用する。  
 屋内作業の場合は、作業者が直接暴露されない設備とするか、局所排気装置等により作業者が暴露から避けられるような設備とすること。  
 取り扱い場所の近辺に洗顔及び身体洗浄のための設備を設け、その位置を明瞭に表示する。

保護具

呼吸器の保護具 : 保護マスク（スプレーを行う場合）  
 送気マスク（密閉された場所で使用する場合）  
 手の保護具 : 保護手袋（有機溶剤又は化学薬品が浸透しない材質）  
 目の保護具 : 保護眼鏡  
 皮膚及び身体の保護具 : 保護服（長袖作業着等）

9. 物理的及び化学的性質

(原液として)

外観

形状 : 液体  
 色 : 黄色透明  
 臭い : 特有の香気を有する。  
 pH : データなし。  
 融点・凝固点 : データなし。  
 沸点、初留点及び沸騰範囲 : データなし。  
 引火点 : -104.4℃～  
 燃焼又は爆発の範囲の上限・下限 : 1.8%～12.0% (vol%)

蒸気圧	: データなし。
蒸気密度	: データなし。
比重	: データなし。
溶解度	: データなし。
n-オクタール／水分配係数	: データなし。
自然発火温度	: >345°C
分解温度	: データなし。

#### 10. 安定性及び反応性

安定性	: 通常の条件下では、安定で、自己重合性はない。
危険有害反応可能性	: 通常の条件下では、特異な反応性はない。
避けるべき条件	: 裸火、熱、高温体、スパーク、静電気。 40°C以上になると缶が破裂する恐れがある。 混触危険物質との接触を避ける。
混触危険物質	: 強酸化剤
危険有害な分解生成物	: 燃焼等により、一酸化炭素等を発生する可能性がある。

#### 11. 有害性情報

物質名	IARC	その他有害性情報
イソプロピルアルコール		急性経口毒性 LD50 rat : 3437 mg/kg 急性経皮毒性 LD50 rabbit : 4059 mg/kg

(製品に関する有害性情報)

製品としての安全性試験は行っていない。

#### 12. 環境影響情報

漏洩時及び廃棄の際には、環境影響を与える恐れがあるので取り扱いに注意する。特に製品や洗浄水が地面、河川や排水溝に直接流れないように対処すること。

#### 13. 廃棄上の注意

容器等の廃棄物は、許可を受けた産業廃棄物処理業者と委託契約をして処理する。  
焼却処理を行わないこと。  
中身を完全に使い切り、火気のない戸外で噴射音が消えるまでボタンを押し、ガスを完全に抜いてから捨てる。中身の入ったものは絶対に廃棄しない。また、ガスを抜く際には、火気及びミストの吸入などについて注意すること。

#### 14. 輸送上の注意

国内法規制	
陸上輸送	: 消防法、労働安全衛生法等に定められている運送方法に従う。
海上輸送	: 船舶安全法、港則法等に定められている輸送方法に従う。
航空輸送	: 航空法に定められている輸送方法に従う。
国際法規制	
国連分類	: Class 2.1
国連番号	: 1950
輸送の特定の安全対策及び条件	: 容器に漏れの無いことを確かめ、転落、落下、損傷がないように積み込み、荷崩れ防止を確実にを行う。

## 15. 適用法令

高圧ガス保安法	: 適用除外項目対象
消防法	: 第4類第1石油類 危険等級II
船舶安全法	: 船舶安全法に定めるところに従う。
航空法	: 航空法に定めるところに従う。
労働安全衛生法	: 施行令 危険物（引火性のもの、可燃性のガス） 名称等を表示し、又は通知すべき危険物及び有害物「プロピルアルコール」

## 16. その他の情報

記載内容の問い合わせ先 : 品質管理室 電話番号 0774-55-1352  
Fax 番号 0774-55-2776

- 引用文献
- : 1) 日本産業衛生誌（2010年度版）
  - : 2) Threshold Limit Values and Biological Exposure Indices (ACGIH) 2006年度版
  - : 3) 独立行政法人 製品評価技術基盤機構 (NITE) GHS 分類結果
  - : 4) 日本塗料工業会編集「MSDS 用物質データベース」
  - : 5) 日本塗料工業会編集「MSDS 作成ガイドブック」
  - : 6) IFRA. CODE OF PRACTICE
  - : 7) 各メーカー製品安全データシート

記載の内容は現時点で入手できた資料や情報に基づいて作成しておりますが、記載のデータや評価に関しては、いかなる保証をなすものではありません。また注意事項は通常の取扱いを対象としたものですので、特別な取扱いをする場合には新たに用途・用法に適した安全対策を実施の上、お取扱い願います。

添付資料 別表

製品の健康及び環境に対する有害性情報（原液としての情報）

有害性項目	製品（混合物）	主要成分の GHS 分類
	GHS 分類	イソプロピルアルコール
急性毒性（経口） LD50 (mg/kg)	区分外 >2000	区分外 3437
急性毒性（経皮） LD50 (mg/kg)	区分外 >2000	区分外 4059
皮膚腐食性・刺激性	分類できない	区分外
眼に対する重篤な損傷性・ 眼刺激性	区分 2	区分 2
呼吸器感作性	分類できない	分類できない
皮膚感作性	分類できない	分類できない
生殖細胞変異原性	分類できない	区分外
発がん性	分類できない	区分外
生殖毒性	区分 1	区分 2
特定標的臓器・全身毒性 （単回暴露）	区分 1 区分 3 （気道刺激性）	区分 1 区分 3 （気道刺激性）
特定標的臓器・全身毒性 （反復暴露）	区分 2	区分 2
吸引力呼吸器有害性	分類できない	区分外
水生環境急性有害性	分類できない	区分外
水生環境慢性有害性	分類できない	区分外

（これらは原液としての評価です）